（遞信省認可）　（日曜日休刊）　（定價二錢）

時事新報

第千六百八十三號
明治二十年九月八日　木曜日
舊丁亥七月廿一日（丙子）
日出午前五時三十八分
日入午後六時十七分
月出午後九時三十六分
月入午前十時二十六分
滿潮午前八時五十五分
午後九時十分
（西曆一千八百八十七年）

時事新報定價
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

歐洲列國の大勢（前號の續き）

佛蘭西の政略

日耳曼墺地利の兩國は今日決して戰爭を好むものにあらず英國も數十年以前にありては大陸の戰爭に關係したれども近來に至りては國民專ら平和を希望し非常の變故あるに非ざれば干戈を動さざるの迹亦た明白なり伊太利の建國も維新にして百事草創自ら守るに遑あらざる今日なれば此國より戰端開くることあらんとも思はれず唯今後將來に恐るべきは佛露二國の政略にして其內の一邦兵を動す時は歐洲大陸變じて修羅場となるべきを期すべからず露國の事は暫く後に讓り我輩佛國の擧動を推測するに其國民は目下一般平和を希望するに相違なけれども政治家中暗に戰爭を好んで己れの功名を貪らんとするの野心なきや否や例へばブーランゼイ將軍の如き外戰の機會に乘じて武功を輝かすと容易ならんなれば爲めに外國に事端を開きて干戈を用ゆるの虞りなしとも信ず可らず然れ共熟々佛國の內情を顧るに自ら好んで戰亂の危險を冒さざるは勿論、萬々露の一國が英國若くは墺國を敵にして開戰を布告することありとするも佛國は成丈け逡巡して戰爭に手出しせざるの工風を運らすならん試に見るべし今日佛國の政治家中開戰主義の者は果して幾名ありや大統領グレヴヰー氏は平和温順の人なりフレシチー氏は思慮謹愼の政治家なり其他スピユーエ氏が日耳曼に好意を表する、クレマンソー氏が英國に信誼を盡す、孰れも持重の政治家にして輕々開戰の政略を贊成する人にあらずフエリー氏は之に比して活潑なれども東京事件より引續き支那と戰爭を醸して佛國に災ひしたれば之れに懲りて今はフレシチーにも彷彿たる謹愼家と爲りたり要するに佛國現在の政治家中勢力ある者は皆殆んど平和主義を執らざるなく此等の諸人が交る〴〵內閣に立つの其間は佛國の主唱に由て歐洲に戰端を開くの氣遣ひある可らず唯油斷す可らざるはブーランゼイ將軍の擧動にして特に其人望の高き前後殆んど比類なく千八百三十年佛國革命の際のラフエート氏の人望若くは又千八百五十年ルヰナポレオンの大統領就職を除きては斯程に民心を收たる事例なくガンベツタの生涯と雖ども今日ブーランゼイ將軍の威望には及ばざること遠しと云へり又將軍が陸軍大臣に在るの日には頗る其材幹を現はし特に士卒に對しては信切鄭寧武將の氣風を備へその威望亦極めて熾んなりし又獨り此れのみならず撰擧民の名望も非常にして當時佛國に人望第一と云はれたるドレセップ氏といへども恐くは將軍に及ばざるべく即ちルヰナポレオンの故智を踏んで其向背を人民直接の撰擧に尋ねたらば多數の贊成を得て佛國兵馬の全權を掌握するに至らんこと左まで難事にあらざるが如くに見ゆれ共然れ共是れ唯一方の所見にして我輩廣く全局の形勢より推察するに將軍今日の地位は決して歐洲の平和を破るに足らざるを信ずるものなり

將軍は佛國內に於て斯く人望の盛んなるに拘はらず歐洲列國の忌憚を受くること曩きのガンベツタ氏に及ばず又實際の人物も恐くはガンベツタ氏ほどに値打せざることならん然るに獨り日耳曼に於ては之を畏るゝ甚しく、將軍にして佛國陸軍の權を握る間は何時にても戰端の破裂す可きが如くに言囃して人心洶々の趣ありしは非常なる誤想にして其實將軍の在職中一度として漫然外戰の計を運らさる事なきのみならず殖民政略にも反對して無用の兵を動さざるを務めたるは明白なる事實なり故に如何なる點より之を察するも將軍一身の勢力を以て今日佛國が歐洲に對する現在の地位を變じて平和を破らんとするの形迹あるを發見す可らず又國內政黨の有樣を顧みるに謂ゆる右黨卽ち保守黨なるものは四分五裂の勢にて同じ王政黨の其中にも神權ボナパルト黨あり民權ボナパルト黨あり或はレヂチミスト派或はオルリヤン派若くは立憲王政派ありて毫も聯絡の通せざるが故に今の共和政府に向ては反對の力なく且つ其表面は王政黨と自稱すと雖ども內心は共和政體に贊成して敢て王家の再興を計らんとする念慮もなければ現在の共和政府は甚だ安全の地位に居るものと評して可なり或は他の局面より社會主義なるものが其勢を逞うして現政府を顚覆せんとするの企なきにしも非ざるべしと雖ども是れも差當りの危險に非ざれば現今の共和政治は苟も平和の續く限りに永存するものと見て相違なかる可し此等の事情より考ふれば佛國は容易に干戈を動し得ざるものにして輿論の多數亦悅んで共和政府を奉戴するの今日ブーランゼイ將軍の開戰主義決して全勝を占むるの憂ひなかる可し唯將軍の人望高き、早晚大統領に撰ばれて兵馬の全權をも掌握するの機會あるやに似たれ共是迚も覺束なしと思はるゝは佛國の大統領は國民の直接撰擧に由るに非ず上下兩院相會して之れを撰むに在ればなり蓋し今のブーランゼイ將軍の人望は千八百五十年のルヰナポレオンに均しきものにて社會下等の多數民には評判甚だ宜しけれども次第に上流の人民に至れば之に望を屬する者次第に少なく就中國會議員の如きは概て反對者のみなりと云ふ可きほどの次第なれば結局平和の世界にては將軍も其政權を握るに方便なきこと數の明なるものなり且つ一歩を進めて論ずるに佛國は古來流行盛衰の甚しき土地にして今日の人望非常なりと思ひの外明日に至りては俄然其人の名さへ忘却するは毎度の例なり共和政治の世の中に居て王政黨の人物は聲聞なきは怪むに足らず共和主義の政治家にして有爲活潑の人と雖も少しく時期に後るゝ時は殆んど世外の徒となりて復た顧る者なきを常とす例へばレオン　セイ氏の如き一時の勢力全國に威望を繫ぐ次第なりしも今日に至りて誰何人も其名を言ふ者なきに非ずやブーランゼイ將軍と雖ども之に異ならず向後數年佛人復た又將軍の名を口にせざるに至るの時あるも疑ふ可らず獨りこれのみならず佛國現在の關係は殆んど獨歩孤立にして歐洲の諸強國中露西亞を除けば一として佛國に與するものなく又露國の應援と雖ども全くは虛勢にして唯暗に之を假して自ら他の諸列國を威嚇するに過ぎざるものなり專制獨斷の露國政府が共和民主の佛國と眞實の利害を同うせんこと六ヶ敷き次第にして佛國亦其趣を悟らざるに非ざれば輕々戰端を開て笑を列國に取るの拙策を學ばざるは必然なり兎角する內ブーランゼイ將軍の名望も地に墜ちて平和主義勝利を制すべしとの說決して無稽にはあらざる可し（未完）

雜報

○大砲大鐘と變ず　獨逸にて此頃鑄造してコロン大寺院に奉納したる大鐘は其重量七千八十五貫高さ十四尺半口徑十一尺半にしてアンドリース　ハム氏がウヰルヘルム皇帝の勅命を奉じて曾て佛國より掠奪したる大砲二十二門に錫を混和し鑄造したる者にて永くウヰルヘルム皇帝の鐘として世に知らるゝなるべし今其鐘の前面を見るに銘あり曰く「獨逸の皇帝にして且普漏西の王たるウヰルヘルムは天の冥助を空くせず佛蘭西と戰ひ勝利を得て茲に獨逸帝國を回復し佛國より大砲を奪して大鐘を鑄造し之を今將に完成せんとする大伽藍に懸く」と又其後面の銘に云く「余（鐘を指す）は皇帝の鐘と呼ばれ、余は皇帝の名譽を宣言す、余は神聖なる伽藍に懸り、獨逸帝國の爲めに、神が永久帝國に與へ得る平和と保護とを祈る者也」と此コロン大伽藍にはセントピーターの肖像あり又貴重、美麗と呼ばるゝ二箇の大鐘もあることなるが此度の鐘は美麗鐘に模して鑄造したる者ありと云ふ

○英國の醫業　英國に於て開業醫と爲らんとするは容易の業にあらず先づ第一に大學を卒業し其後六年間病院に在勤して實地修業を爲したる者にあらざれば倫敦衞生局より開業免許狀を得る能はざるの法なるが故病院は何れも廣大にして醫學生常に充滿せることなるが殊に倫敦病院及びキングス病院の如きは最も盛大を極むる者にて病室毎に必ず一名宛の醫師ありて丁寧に診察療治し又毎日幾回となく病人に向て衞生上の講義を爲し聽問人の意見を求め抔して恰も病院は實地の大學校の如くなりと

○入眠　獨逸の或る新聞紙に記載する所に據るに獨逸及び瑞西兩國にて年々製造する所の入眠は二百萬個以上にして佛國にても年々三十萬個を製造するとのことなるが是等の入眠は多くは日常火と取扱ひ隨て明を失ふ勤勞者の購求する者にて大抵五箇年間も使用すれば再び入れ換へざるを得ざる者となるべしとの事なり

○愛媛縣の學事　同縣に於ては昨年の縣會が中學校を廢棄したるより今度有志の人々が更に發企と成り資本金十三萬圓を募りて純然たる私立中學を興し從來の縣立中學校に比して一歩も劣らざる教育を地方子弟に與へんと欲し伊豫にて八萬圓讃岐にて五萬圓孰れも資金の聚まるは遠きに非ざるべく斯て彌々設立を見るに至らば隨分完備したる者ならんと云へり又同縣の師範學

校は甚遠き者にて
の費用を拋ち充分
盡せんと縣廳爲め當
文部省よりの委托金
關れ金を地方稅に要
其事の運びに至るや
べし此外全縣下教育
爲め曩に愛媛縣教育
一般教育上特志の人
員も增加し日まし隆
教育家は官立學校と
意の解け合はざりし
除け公私共同して
爲りたるは同縣學事
該地に遊びたる人の

○食麵の製造、需用
色黑く之れを食麵に
米の物に比すれば其
程なるが這は單に麥
又は製粉の仕方又は
日本人の製造法不熟
るものならん尤も製
付ありしものを始め
臺は夙に米國紐育
れも二十五馬力以上
て其製法は更に西洋
海軍を首とし露領ウ
も應じて是まで輸出
器械は今春來野村忍
相當の約束にて年賦
り先づ淺草御藏跡に
船所の跡凡五千有餘
築し又各一丈二尺四
社と名づけて粉を製
燒上る事と爲し之を
のを支社とし從來札
餘分のものは長崎に
ある由又橫須賀橫濱
には各支店を置くと
械とてはなく唯燒釜
り送り時々の需めに
築地製粉會社にて製
て月々六萬斤に下ら
と爲し陸海軍に送る
々之れを製すると云
撰び重に相州本場と
次に武州常州又は飛
本小麥中にて外形よ
參州産は粒大に色稍
り然れども其味に至
及ばず左れば代價も
云ふ近來府下にて小
の挽臼にて製したる
の食麵を製する能は
原料を取る者も大に

○京都府下現存の會
今年に掛けて京都地